

令和6年能登半島地震にかかる介護職員等応援派遣

株式会社 ケアマインド
リハビリディそら園田 管理者 M.O(介護福祉士)
S.Y(介護福祉士)

派遣場所 石川総合スポーツセンター (1.5 次避難所)
派遣日 令和6年1月22日(月)～令和6年1月24日(水)
時間 8:00～20:00

※兵庫県からの派遣・移動であったため、前日に金沢入りして、
1月25日移動し移動含め5日間でした。



1月22日(月)1日目

7:05頃現地に到着

受付場所が分からずメインアリーナ総合受付で事情を説明し介護福祉士受付場所を教えてください向かう。
現場は混乱しておりその日の派遣メンバーも把握できておらず、事務作業が遅れており情報が更新されていないと現場の責任者の説明あり。当日の介護スタッフの人数が把握できていない状態でのスタートとなる。
ブース中央前方にテレビが1台あり その前に席数は少ないが食事スペースがある。

この日の担当場所は A～F までのブースの中で自分は AB 担当との指示があり本日の業務内容を聞くが
まだ決まっていないとのこと。(1ブロック10名 計60名位収容)

まずは担当の方の情報収集の為ブース前のシートを確認

(1人スペース 介護用ベッド使用1ブロック10名 計60名位収容)

記入してあるのは服薬確認 排泄回数 食事量 疾患名程度
ADL の記載はなく自己にて確認しながらメモをとっていく。

指示のないまま朝食の時間となり、近くにいるスタッフに、
聞きながら配膳、食事介助を行う。

10時頃に介護メンバーが決定しその日のケアの相談をおこなう。

介護スタッフが4名確定したので昨日までできていない衛生面の
ケアを実施する。足浴、ドライシャンプー、口腔ケア、
手分けしバケツでお湯を運びながら順番に行っていく。

清拭に関しては未実施。排泄に関してはおむつ交換が日中は2回。トイレに行く人は館内の隅にある
ポータブルトイレ2か所を使用。その都度交換できず新聞紙をかぶせて ある程度いっぱいになると袋を交換。
洗面所設備が離れているため避難利用者は抗菌ウェットティッシュなどで手をふく。

口腔ケアも義歯などはペットボトルの水で洗う程度。



食事に関して形態は2通り

●プリン系の固形のものとおかゆ(離乳食っぽい) ●ペースト状

飲み物はペットボトルのお茶、水、とろみ茶(基本冷たい飲み物のみ)

水分補給として OS ゼリー飲料、水分ゼリー、ビタミンゼリーなどがある。

空調はエアコンが作動 寒くはないがかなり乾燥している。

排泄交換でかなり尿の量が少ないとの情報があったので 時間を見つけては水分補給の介助を行う。

昼休憩は約1時間スタッフ交代でとる。休憩場所は決まっておらずアリーナ内の椅子のあるところで休憩をとる。

以後休憩はなし。午後足浴の続きを行う。

一般の介護ボランティアは14時～17時には帰るので、人数的には午後は手薄状態となる。

夕食終了後口腔ケアを済ませ19時までに排泄(おむつ交換)を行い夜勤チームに引き継ぐ。

1月23日(火)2日目

現地7:05分到着

昨日と同じ受付へ行く(まだデータの更新はできておらず 手書きにて名前 連絡先を記入)

統括リーダーより昨日の担当場所と同じところの担当の指示を受け支援がスタートする。その日のリーダーと打ち合わせをし 自分たちが困ったADL 介助方法など気づいた点をブース前の紙に記入していく。

今日のスタッフは5名と余裕もあり昨日できなかった 環境整備 シーツの交換などを行う。

感染ゾーンがフリーとなったため ポータブルトイレの台数も増え 4 か所となり排泄がよりスムーズとなる。

空いた時間にお話を聞いたりし、気分転換に館内を回ったり炊き出しの食べ物やおやつなどの配布もでき少し和やかな時間を設けることができる。

夜勤者が4名予定(全ブース)と聞いていたので、帰るまでにおむつ交換など排泄を終了しこの日の支援は終了となる。

1月24日(水)

現地7:05頃到着

昨日と同じ受付へ行く(まだデータの更新ができておらず手書きで名前、連絡先を記入)

統括リーダーよりまた同じ場所への担当するよう指示を受け支援につく。30分位すると統括リーダーより呼ばれ別館のサブアリーナの方に応援に行ってほしいといわれる。自分を含め4名が応援に行くこととなる。

(大雪で一般のボランティアの多くが欠席したためとの理由)

昨日までの支援場所より広く 基本2人スペース 段ボールベッド使用(1ブロック20名 計120名収容)

ブース中央にテレビが1台あり食事スペースが設けられ、大半の方がこの場所で食事を行う。

40人を3人体制で支援する対応となり、比較的介護度が低い方だと予想をしたが、全介助の方が含まれており、介護度はバラバラの状態、また一からの情報収集となる。大まかな介助方法は記入があったので、それに基づき支援にあたる。

しかし3人での対応となり、なかなか情報の共有ができず、支援がスムーズに進まず急に救急搬送になったり、場所の移動があったり医療チームとの情報共有が不足していた。

自立で歩行・トイレ(ポータブル)にもいかれる方もいるので、ブース内を常に歩きながら見守りを行う。

段ボールベッドを使用しているため、ベッド柵もなく転落・ずり落ちが多く発生していると報告を受ける。

自分は他2名のスタッフと連携を取り事故がないようさらに見守り・声掛けを徹底し支援にあたる。

衛生面の介助は実施できず、食事誘導・食事介助・口腔ケア・排泄交換で支援は終了となる。

衛生面の不安、多職種との連携、情報共有不足、など課題が多く感じられましたが全国から支援に来ていた介護士との交流がとても有意義で勉強になり、また自分たちが実際困ったこと、災害支援の難しさを伝えていけたらと思います。

まだまだ復興が進まない現地ですが、被災者の方々また介助が必要な方々がなるべく早く安心して過ごせる日常が取り戻せるよう心より願っています。

以上